

今回のテーマ ～ インストラクター小鹿和男氏の教材紹介・啓発のポイント ～

秋もだいぶ深まってきました。青森市の中学校では文化祭準備に追われています。学校中から歌声が聞こえてきたり、放課後に仲間と一緒に和気あいあいと作業したりしている姿を見ると微笑ましい姿です。良き学校の文化ですね。今号では子どものネットリスク教育研究会で一二を争う人気講師の小鹿和男氏より「教材紹介と啓発のポイント」を伝授していただきます。

青森支部の小鹿和男です。私は2019年3月に37年間の教員生活に終止符を打ち、現在は専業主夫、講演活動を楽しんでいる毎日です。さて、今回は私が小：中学校で行ってきた講演の概要を紹介します。皆さんの参考になれば幸いです。

- 1 対象：K 小学校児童（1年～6年）とその保護者、合計約140名
- 2 学校保健委員会のテーマ「メディアとの付き合い方 ～わが家のメディアルールをふり返ろう～」
- 3 講演の流れ（30分間）

- 1) 導入：「保健委員会の発表を拝見しました。皆さん、とてもよくがんばっていると思う。青森県で一番かも。今回、あまり守れなかった人も大丈夫。大人でもスマホを我慢することはとても難しいのですから、今日からまた頑張ろう。」
- 2) 取り組みの目的を理解させる：「何のためにメディアコントロールをするのか。それは、自分の夢を叶えるため。なぜゲームをしすぎちゃいけないの？ゲーム依存になるから？そうだね、ご飯を食べない、遅くまで起きている、学校にも行かない、そして家ではゲームばかり。ゲーム依存になると自分の夢を実現できなくなっちゃう。」
- 3) 健康被害と学力被害を理解させる：「ゲームのやり過ぎで大切なものを失ってしまった例を紹介しよう。最初は目の健康。スマホ・ゲームのしすぎで野球の時に空振りをする子が増えている、その理由は？三択クイズです。人間は両目で距離を測る。ところがスマホ長時間だと目を守るために脳が勝手に片目で見ようとする。その結果、左右の目のピントがばらばらに動いて距離感をつかめなくなる。野球だけじゃなく、サッカーもバスケットも距離感がつかめないとよい選手にはなれない。二つ目は成績が下がること。スマホ・ゲームはやればやるほど成績が下がる。3時間以上するとはっきりと差が出てくる。さらに学校で勉強したことも消えてなくなってしまう。脳みそがスカスカになります。」
- 4) ゲーム過多の未来を予知らせる：「ゲームをたくさんやった子どもを本で調べてみた。タイトルだけ紹介します。子どもが壊れる家、ネットゲーム依存症、メディアに蝕まれる子どもたち、スマホが学力を破壊する、スマホ廃人 などなど。そして極めつけはこの本 ITは人を幸せにしない。スマホを便利に使いこなす本はたくさんあるけれど、スマホをたくさん使えば幸せになる、という本は一冊もなかった。ゲームをやり過ぎるとやっぱり夢には届かないみたいだ。」
- 5) まとめ：「みなさんが夢を実現するために、今、がんばること。家庭のルールを守ること、家族といっぱい話すこと、家族と楽しいことを作ること、学校でも同じ。学校はみんなで仲良く協力することを学ぶところ。そして大人になった時に、ケンカや戦争のない平和な社会を作るんだよ。みなさん夢をここにいるみんなが応援していますよ。」

※小鹿氏の実践は「将来の夢をかなえるためにスマホ・ゲームをやり過ぎることはよくない」という教育的な愛情を一本筋に通して、講演を組み立てられています。「愛情」または「脅し」だけで講演をすることは子どもにうまく伝わりません。根っこにある「君たちの将来を守りたい」という愛情のもとに納得してもらうためにエビデンスを伝える。そんな小鹿氏の実践から学べることは多いと感じます。（本間）